

優秀賞

勇気と気づき

武蔵野大学中学校 1年 徳吉 智

僕は、失敗から学んだことがいくつもある。勉強やスポーツ、日常生活の中で多くの失敗をしてその失敗を反省し次につなげて成功させながら、また失敗して反省をする。これを繰り返しながら今日一日を過ごしている。

失敗することが多い中で僕は一つ今後の課題を見つけた。それは、自分で気づき、始める勇気だ。夏休みに母と出掛けた時、駅で白い杖を持った女の人が居た。母は、その女の人に気づき、話し掛けて国分寺まで一緒に行った。階段があと何段で終わるのか、ホームと電車との間が広く開いているとか、電車とホームとが平らでないとか。白い杖を持った人が不安にならない様な声を掛けていた。

白い杖を持った人と別れ、帰りの電車から降りると母が「階段でこう。」と言った。階段に近づくと「静かにして耳を澄ませてごらん。何か聴こえるでしょ。」と母は言った。「うん。鳥の声。」と僕が答えた。「その通り。この音は、目が不自由な人に、階段はここです。と音で知らせているの。」と教えてくれた。この音は、そんなに大きくない。いつも僕が使っている駅のホームの階段で僕はこの音を耳に入れたのは、今回が初めてだった。通学の時間は駅に人が多く音を聴くのは難しいと気づいた。

何かに気づくというのは、自分の目で見て気づくこと、耳で聴いて、心で感じ取って気づくこと。たくさん気づきが必要だということに僕は気づいた。

僕は気づき、行動する勇気を母から学んだ。失敗することもある。僕が気づく前に他人が気づくこともある。でもその先の一步。勇気を出して行動することを僕はして行きたい。何ごとも失敗から学び得て行きたいと僕は思い今後の課題を見つけた。